

平成29年11月15日

国土交通大臣 石井啓一 様
国土交通省九州地方整備局長 増田博行 様

「立野ダム工事を一旦中止し県民に説明を」県民大集会実行委員会
立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康
ダムによらない治水・利水を考える県議の会 代表 西 聖一
立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会 代表 田上辰也
連絡先 熊本市西区島崎 4 丁目 5-13 中島康 電話 090-2505-3880

立野ダム工事を一旦中止し、 県民に十分説明することを求める要請書

私たちは去る10月28日、熊本市森都心ホールで県民総決起集会「立野ダム工事を一旦中止し県民に説明を」を開催し、300名の参加者を得ることができました。集会で採択された集会宣言文の内容について、下記の通り強く申し入れる次第です。

昨年の熊本地震により立野峡谷では阿蘇大橋が崩落し、立野ダム水没予定地の大半が崩れました。多くの住民が、こんな危険な場所にもうダムは造られないと思いました。

重機が下りれず、ダム水没予定地まわりの土砂崩壊対策工事もできません。ダムの水位が上がれば、周辺の火山性堆積物が崩れ、湛水（たんすい）地すべりが発生するのは明らかです。付近には活断層も走り、ダムを建設するには地盤が悪すぎます。このような場所に、高さ90mもの巨大なダムをつくれば、次の世代に大きな災害源を残すこととなります。

洪水のときに、幅が5mしかない立野ダムの穴は明らかに流木等でふさがります。そうなれば、洪水を下流に流すことができず、ダムは短時間で満水になり、洪水調節ができなくなります。

阿蘇くじゅう国立公園の特別保護地区を破壊し、917億円と言われる総事業費も大幅に膨らむことが懸念されるなど、多くの問題点が指摘されています。一方河川改修で白川の流下能力は大幅に向上し、立野ダムを建設する必要はありません。

昨年夏に国土交通省が設置した技術委員会は、わずか3回の会合で、同省の「立野ダム建設は技術的に可能」との見解をそのまま認めてしまいました。国交省が選んだ7名の委員は、熊本とは縁もゆかりもない方ばかりで、国交省から天下った人もいます。国交省が選んだ委員が、国交省の見解に異議を唱えるわけがありません。

国交省は、そのような技術委員会の見解を「錦の御旗」に立野ダム建設を推し進め、住民の公開質問状にも答えず、立野ダム説明会さえ開こうとしません。

立野ダム水没予定地にある阿蘇ジオパークの貴重な地質遺産である柱状節理も、住民の知らぬ間に破壊されました。立野ダム本体予定地右岸には、さらに貴重な柱状節理が見られ、立野ダム本体工事が始まれば幅200mにわたって削られ、永久にダム本体のコンクリートに飲み込まれます。これらの柱状節理は、阿蘇の成り立ちを知ることでできる学術的にも貴重な、後

世に残すべき地質遺産です。その景観は、地元にとっても貴重な観光資源となりえるものです。

どこに何のために巨大ダムがつくられようとしているのか、ほとんどの県民は知る機会さえありません。県民の知らない間にダムができてしまえば、将来大きな禍根を残すこととなります。ダム建設が何をもたらすのか知ることが、私たちの世代に課された権利であり、責務です。国交省は「住民に知らせない、住民の声を聞かない、住民の疑問に答えない」という姿勢を改めるべきです。

私たちは国土交通省に対し、立野ダム建設工事を一旦中止し、県民に広く説明し、県民の疑問に答えることを強く求めます。

以上

工事中止と説明求め

県民300人が決起集会 毎日新聞 2017.10.30

立野ダム

白川上流の立野峡谷（南阿蘇村、大津町）に国が計画している立野ダム建設に疑問を抱く県民約300人が28日夜、熊本市西区春日の森都心プラザホールで決起集会「阿蘇ジオ



集会ではドローンで空撮した立野峡谷の動画を映しながら、立野ダムの放流孔が詰まる危険性が指摘された

パークを立野ダムでこわさないで」を開き、工事を一旦中止して県民に広く説明し、疑問に答えるよう国土交通省に求める宣言を採択した。集会では、九州北部豪雨で被災した福岡県

朝倉市上流域の山林と、熊本地震で斜面が崩落した立野峡谷をドローン（小型無人機）で空撮した動画を映しながら、ダムの底に設けられる幅5分の放流孔が流木や土砂で閉塞する危険性を指摘。「立野ダムによらない自然と生活を守る会」の緒方紀郎事務局長（54）が、5年前の豪雨で白川が氾濫したのは未改修区間だけで今は改修が終わっていることなどを説明し、何度公開質問状を出しても一度も回答しない国を批判した。

阿蘇ジオパークガイドの中島一美さん（69）は、国交省の新阿蘇大橋建設で立野峡谷の柱状節理が破壊されることを南阿蘇村も阿蘇ジオパーク協議会も事前には知らなかったとして、行政はジオパークの重要性を認識していないと訴えた。「南阿蘇自然守り隊」の松本久さん（65）は国が立野ダム事業を再検証した5年前、ダムの建設費が980億円、年間維持費が2億6000万円だったのに対し、代替案の遊水地は建設費1150億円、年間維持費5000万円と見積もっていたことを紹介。地震被害を受けてダムと代替案が現時点でそれぞれいくらかかるかを明らかにすべきと主張した。

この後、白川漁協の元組合長や5年前に被災した熊本市中央区渡鹿地区と北区龍田地区の住民、国と県、熊本市に説明会開催を要望した女性らがダム建設への不安や懸念を表明。最後に「住民に知らせない、住民の声を聞かない、住民の疑問に答えない」姿勢を改めるよう国交省に求める宣言を拍手で採択した。

【福岡賢正】